



学校だより

No. 8 さいたまし立神田小学校
令和7年 8月27日発行 Tel (853) 4377
URL : <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

逆境に負けない強い心を手に入れる

校長 中村 誠

夏休みが終わって、いよいよ2学期となりました。御家庭ではいかがお過ごしだったでしょうか？子どもたちは、長い休みの中でチャンスにチャレンジしてチェンジする機会もあったかと思います。しかし、その舞台裏には、保護者の皆様が学期中にはない御苦勞をされていたかと思います。本当にお疲れ様でした。2学期以降も、学校・保護者・地域が一体となって子どもたちの健全な育成をしていきたいと思っています。どうか御理解と御協力のほどお願い申し上げます。

また、本日を迎える前に、子どもたちの中には「学校が楽しみ!」「友達とはやく会いたい!」という子もいれば「ああ・・・面倒だなあ」「なんとなく行きたくないなあ」と思う子もいたかと思います。大丈夫です。自分のペースで生活してきた夏休みから集団生活が始まる2学期になるのですから、楽しみなことあれば心配なことがあるのは当然です。それは大人も同じです。感受性が豊かな子どもたちだからこそ、期待も含めた不安や心配も大きいかと思います。私たち教職員一同は、そうしたたくさんの思いをもった子どもたちが、安心して学校生活が送れるように、2学期のスタートをあたたかく迎えてまいります。心配なことがありましたら、遠慮なくご連絡ください。

さて、私はこの夏休みに「こども天風哲学」という本と出会いました。この本は、中村天風という哲学者の言葉を、子どもたちに向けてわかりやすく説明し、これから生きる糧にしてほしいとの思いで作られたものです。例えば、「心が折れそう。どうすればいい?」という問いに対して、「心は生きるための道具にすぎない。道具だから、自由自在にコントロールできる。」と答えています。解説では、人間を扇風機に例えて詳しく説明しています。扇風機自体を「体」、電源を「心」、流れる電気を「命」とたとえ、電気(命)を使うために電源(心)を入れると考えれば、心は道具にすぎないということです。そして「心が折れそうでも怒ったり悲しんだり苦しくても、自分の意思で元気にしていくことができます。」と言って子どもたちを励ましています。この本は、子ども向けに作られた本ですが、読み進めていくうちに私自身も元気になっていきました。読書の秋には少々早いのですが、この機会にお子様と一緒に読んでみてはいかがでしょうか。

子どもたちには、これからの人生で自分の思い通りにいかなかないことや何かに取り組んでうまくいかないことには、たくさん遭遇するでしょう。そうした状況下で、「逆境に負けない強い心」をもっているかどうかで人生は大きく変わるといえます。ましてや、予測不可能と言われた今の時代で、どんな状況でも心は負けなと思って挑戦し続けることはとても大事です。そうした子に育ててほしいという思いを「チャンスにチャレンジしてチェンジする」という言葉に込め、本校での教育活動を進めてまいります。

保護者の皆様、地域の皆様には、今学期も子どもたちの頑張りを称賛し、強くしなやかな心をもつ人間育成にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。